社会系地理教科書にみる東南アジアとオセアニアに関する情報の分析と世界地誌学習の改善

吉　田　　剛*

キーワード：体系化，比較地誌，オーストラリア，市民的資質

Ⅰ．はじめに

アジア・太平洋諸国の調和に向け，我が国と東南アジア・オセアニアの諸国との国際関係は一層重要となり，学校地理教育においても重要視していく必要がある。例えば，小中高の学習指導要領解説や教科書の記述から，学校地理教育における東南アジア諸国やオセアニア諸国に関わる地理的認識の方法などの課題が見いだせる。そこで本稿では，我が国の小学校社会科・中学校社会科地理的分野・高等学校地理歴史科地理A/Bの教科書にみる東南アジアとオセアニアに関する情報について学校種別に分析し，とくに中・高等学校の世界地誌学習や我が国の学校地理カリキュラムへの若干の示唆を試みる。

近年，深瀬（2014）は，アメリカの教科書記述を検討し，発達段階に応じたアメリカ地誌の学習カリキュラムの構築の必要性を言及している。中村（2010）は，経年的に学習指導要領と教科書から地理的分野の東南アジアの記述を検討し，各学習指導要領期の特徴に応じた東南アジアの記述の増減を説明している。他方で，生徒の地理的な世界認識について，吉田（2001, 2003, 2006）の成果がみられる。それによれば，教科書記述や教師の教え方などは，生徒がもつ世界の様々な地域のイメージ形成に影響を及ぼし，そのイメージ形成には，序列性や階層性などの特徴が見いだされる。そこでメディア・リテラシーの育成，体系化された空間認識の育成とそのための小中高一貫地理カリキュラムの検討やアンカー・ポイント理論を援用した単元構成の工夫などが求められる。これらの先行研究によって，学習指導要領や発達段階などを踏まえ，世界の諸地域に関する体系的な地理カリキュラムを構築する重要性が確かめられる。

さて，地誌学は地域認識の枠組みを提示し，様々なスケールで地域像を描くものとなるが（矢ヶ崎，2015），それを反映する地誌学習では，動態地誌，静態地誌，比較地誌などの各々に特徴を持ったアプローチがみられる（吉田，2014）。本稿では後述の検討のために，とくに先行研究において議論の少ない比較地誌アプローチに着目する。ところで，池（2013）は，世界地誌学習の意義について，①世界各地域の地域的特色の把握によって，世界の多様性を認識し，子ども自らの地域像・世界像を形成できるようになること，②地域的特色の把握方法を獲得することによって，地域像・世界像を常に更新できること，③形成される地域像や世界像と，自らの生活する地域像あるいは自己との相対化ができることの三つをあげている。これらの意義は，いわば地理的な世界認識の形成，その方法，認識主体との相対化ともいえる。本稿では，③をさらに現代的な教育課題から考え，

* 宮城教育大学

新たに④として，ローカル，ナショナル，リージョナル，グローバルなどの様々な地理的な社会規模における多重な市民的な価値態度の形成に繋がる意義を見いだし，後述の検討のために留意しておく。いわば，地理的な世界認識の形成によって培われる様々な地理的な社会規模における多重な市民的資質へと繋がる意義の意識化である。

Ⅱ．小学校社会科教科書にみる東南アジア・オセアニア

第１表より，小学校社会科教科書では，第５学年上で世界地図の大観において大陸や主要な国・国旗が取り上げられ，その中でオーストラリアが多くで取り上げられている。また，日本の周辺国としてフィリピンも一部に取り上げられ，物語風の文脈でオーストラリアを細かく記述する教科書も一社みられる。第６学年下「世界の中の日本」（日本とつながりの深い国々）では，東南アジア・オセアニアがほとんど取り上げられていない。小学校では，東南アジア諸国の地理的認識がほとんど求められていないが，オーストラリアは名称・国旗とともに，概ね世界の中の大陸としての位置認識が求められている。

Ⅲ．中学校社会科教科書および高等学校地理歴史科地理教科書にみる東南アジア・オセアニア

第２表より，中学校社会科地理的分野教科書では，前方の「人々の生活と環境」単元に，暑い地域（マレーシア・ツバル・フィジー），低い土地（バンコク），途上国（マニラ）などのテーマにおいて東南アジア諸地域が取り上げられているが，オセアニア諸地域はみられない。次の「世界の諸地域」単元をみると，東南アジアは，「アジア州」で主に産業や貿易が取り上げられ，「オセアニア州」では，主題に「結びつき」が着目され，主に自然，産業，貿易，多文化，観光が取り上げられている。教科書冒頭「世界のすがた」では，概ね世界の中の大陸・州の位置と名称と，主な国の位置と名称を把握する内容構成をとる。ここで，オーストラリア大陸（国）は，小学校より再認識できる学習場

第１表　小学校社会科教科書における東南アジア・オセアニアに関わる単元

教科書	『小学校社会５上』 （17教出 社会503）	『新しい社会５上』 （2東書 社会501）	『小学社会５年上』 （116日文 社会507）	『小学生の社会５上 生活をささえる生産』 （116日文 社会509）	『社会５』 （38光村 社会505）
東南アジア・オセアニアに関わる単元	『わたしたちのくらしと国土』 １日本は世界のどこにあるの ○世界を一周してみよう（pp.8-9） 語句：タイ，オーストラリア，オーストラリア大陸 図：世界図（国旗） 写真：オーストラリア，タイ ○日本の周りは？ （pp. 12-13） 語句：フィリピン 図：東アジア中心衛星写真図（国旗）	『わたしたちの国土』 １世界の中の国土 ○わたしたちの地球（pp.3-5） 語句：オーストラリア，ニュージーランド 写真：オーストラリア（サンゴ礁），ニュージーランド（林業） 図：衛星写真世界図，世界図（国旗） ○世界の中でのわが国の位置 （pp.6-7） 語句：オーストラリア，オーストラリア大陸，ニュージーランド 図：世界図（国旗） ○国土の広がりと領土 （pp.8-9） 語句：フィリピン，ベトナム 図：東アジア中心（国旗）	『日本の国土と人々のくらし』 １日本ってどんな国 ○世界の国々と比べて，日本にはどんな特色があるのか（pp.4-11） 語句：オーストラリア大陸，タイ，ベトナム，フィリピン，インドネシア，オーストラリア 図：衛星写真世界図，世界図（２図法の基で国旗）	『世界の中の日本』 （pp.2-4） 語句：オーストラリア大陸，フィリピン 図：衛星写真/手書き世界図，東アジア中心（国旗）	『日本の国土とわたしたちのくらし』 （pp.10-13） １国土の様子 語句：オーストラリア，オーストラリア大陸，ニュージーランド 写真：（ウルル，キャンベラ 図：世界図，オーストラリア図（本文と図中の語句：グレートディバイディング山脈，ウルル，キャンベラ，コジアスコ山脈，ダーリング川）

○：単元内の小見出題目

（筆者作成）

第2表　中学校社会科教科書における東南アジア・オセアニアに関わる単元

教科書	『中学社会 地理 地域にまなぶ』 (17教出 地理722)	『社会科 中学生の地理 世界のすがたと日本の国土』 (46帝国 地理723)	『新しい社会 地理』 (2 東書 地理721)	中学校社会科地理的分野 (116日文 地理724)
東南アジアに関わる単元	『人々の生活と環境』 1 赤道に沿った暑い世界―熱帯の地域と人々の暮らし― ○マレーシアの暮らしの変化 (p.17) 【先住民】	■主題図の読み取り方・つくり方 (p.43)	『世界各地の人々の生活と環境』(pp.34-35) 7「低い土地でくらす人々」 ○水の上の生活 ○季節により変化する川の水位 ○変わりつつあるバンコク 【雨季，乾季】	『社会のようすと人々のくらし』(p.33) 2「大都市に生きる人々―ロンドンとマニラのくらし―」 ○発展途上国の大都市のくらし
	『アジアの多様性と経済発展』 (pp.44-45, p.49) 6「変わる産業と貿易」 ○豊かな農水産物や鉱産資源 ○進む工業化と貿易の変化 ○さまざまな民族 ○タイに暮らす人々 ■発展途上国の都市と貧困 【プランテーション，東南アジア諸国連合】	『アジア州』(p.46, p.50, p.56) 2「多様な文化と集中する人口」 ○交流で生まれたアジアの文化 4「工業化が進むアジア」 ○工業化と外国企業の進出 ■水資源の有効利用 【工業団地，東南アジア諸国連合】	『アジア州―急速に進む成長と変化』(pp.50-51) 4「急速に変わる東南アジア」 ○増える日本への輸出 ○農村のくらしの変化 ○急速な都市化と課題 【二期作，都市問題，都市圏】	『アジア州のようす―　集中する人口や変化に富む自然環境と人々のくらしをテーマに―』(pp.46-47) 4「多くの人口と活発な産業」 ○多くの人口と豊かな農産物 ○豊富な労働力と工業の発展 【二期作，プランテーション】
オセアニアに関わる単元		『暑い地域のくらし～太平洋の島々での生活～』 (pp.18-21) ○ツバルの位置と自然 ○暑い地域の島での生活 ○輸入品の増加と生活の変化 【熱帯林】	『世界各地の人々の生活と環境』(pp.30-31) 5「常夏の島でくらす人々」 ○自給自足に近いフィジー ○いつでも豊富な果物 ○さんごしょうと観光開発 【熱帯，熱帯雨林，さんごしょう，マングローブ】	
	『他地域と結びつくオセアニア』 (pp.98-107) 1「オセアニアをながめて―島々と海の世界」 ○オセアニアのイメージ ○オセアニアという地域 ○太平洋の島々 ○ヨーロッパの強い影響 2「多文化社会を目指して―多様な人々からなる社会」 ○豊かな国　オーストラリア ○植民地支配とアボリジニの人々 ○白豪主義から多文化主義 ○アボリジニとの「和解」 3「太平洋の島々の暮らし―外国との結びつきを強める経済」 ○サモアの国と社会 ○伝統的な生活とその変化 ○パプアニューギニアの国と社会 ○観光と文化 4「アジアとつながるオセアニア―海続きの隣人として　―」 ○北を向くオーストラリア ○ニュージーランドの牧畜業とその変化 ○オセアニアの観光とその課題 ○日本とオセアニアのかかわり ■進む地球温暖化の影響 【さんご礁，アボリジニ，白豪主義，多文化主義，マオリ】	『オセアニア州』(pp.102-109) 1「オセアニアの自然環境」 ○オセアニアとはどのような地域か ○オセアニアの自然環境 2「自然環境の影響が大きいオセアニアの産業」 ○降水量に左右される農業 ○豊富な鉱産資源 3「追究移民と多文化社会」 ○オセアニアの学習を深めよう ○移民の国 ○先住民との共存 ○多文化社会 ■広がるオゾンホール，日本人が伝えた稲作 【牛，羊，放牧，露天掘り，多文化社会，異文化理解】	『オセアニア州―強まるアジアとの結びつき―』 (pp.91-97) 1「オセアニア州をながめて」 ○「乾燥大陸」と多くの島々 ○オセアニアの文化 ○変化するオセアニアの経済 2「資源によるアジアとのつながり」 ○変わる輸出品と貿易相手国 ○自然環境に合った農牧業 ○豊富な資源を生かした国際関係 3「人々によるアジアとのつながり」 ○白豪主義からの転換 ○多文化社会をめざして ○増大するアジアからの観光客 【火山島，さんごしょう，アボリジニ，マオリ，露天掘り，白豪主義，多文化社会，リゾート地】	『オセアニア州のようす―結びつきの変化をテーマに―』 (pp.96-101, 103) 1「オセアニア州の姿」 2「オーストラリアの結びつきの変化」 ○平らで乾燥した大陸 ○オーストラリアの歴史と結びつき 3「オセアニア州のさまざまな結びつき」 ○オセアニア州の貿易のようす ○太平洋に広がる島々 ○観光からみた結びつき ○太平洋の海洋国と日本 【アボリジニー，ミクロネシア，メラネシア，ポリネシア】

○：単元内の小見出題目，【　】：教科書記述中の太字，■：トピック頁

(筆者作成)

面にあたるが，一方で，東南アジアは初めての学習場面となり，またオセアニアの諸島に関する空間認識も初めてとなる。その後，「人々の生活と環境」へと繋がるが，一国でみると，東南アジア諸国（オセアニアの諸島）は，主に事例地域（都市や国家）としての取り上げとなり，大陸構成国としての空間認識形成のための意図が弱く，総体的な地理的認識の形成の積み上げも弱く，分量的にもオーストラリアや中国・韓国などに比べるとかなり劣る。一方，オセアニアの中心に語られるオーストラリアに関しては頁数も多く，一国を多面的に認識する場面が用意されている。

第3～5表より，高校地理教科書では，「東南アジア」は静態的地誌，「オセアニア」はオーストラリア中心の動態的地誌か比較地誌（対カナダ）がとられている。小学校社会科から高校地理までの地理的な認識形成の積み上げからみれば，明らかにオーストラリアの取り上げは量と質ともに手厚く，学習において探究し

第3表　高等学校地理歴史科地理A教科書における東南アジア・オセアニアに関わる単元（1）

教科書	『高等学校新地理A』（46帝国 地A303）	『高校生の地理A』（46帝国 地A306）	『地理A』（2東書 地A301）
東南アジアに関わる単元	『東南アジアの生活・文化』 (pp.82-89) 1「東南アジアの自然環境」 ○季節風の影響を受ける自然環境 2「東南アジアの歴史と民族」 ○東南アジアの歩み ○東南アジアの民族 3「東南アジアの農業とその変化」 ○東南アジアの稲作・商品作物栽培の変化 4「工業の発展とASEAN」 ○モノカルチャー経済からの脱却 ○各国で進む工業化 ○これからのASEANの役割 ■2「熱帯林の破壊とその解決」 (p.149) ○東南アジアの熱帯林の開発と保護 **【新期造山帯，季節風（モンスーン），雨季，乾季，三角州（デルタ），モノカルチャー経済，ASEAN（東南アジア諸国連合），華人，ブミプトラ政策，棚田，二期作，緑の革命，商品作物，プランテーション農園，輸出加工区，ドイモイ（刷新），ASEANプラス3，自由貿易協定（FTA）】**	『東南アジア』 (pp.64-71) 1「東南アジアの自然」 ○熱帯地域の自然と生活 2「東南アジアの歴史と文化」 ○東南アジアのさまざまな寺院 ○複雑な民族構成 3「東南アジアの農業」 ○米料理を育てた気候と農業技術 ○商品作物と養殖 4「工業の発展とASEAN」 ○東南アジア諸国の工業発展と生活の変化 ○これからのASEAN **【季節風（モンスーン），三角州（デルタ），華人，二期作，緑の革命，商品作物，プランテーション，マングローブ，輸出加工区，アジアNIEs，スラム，東南アジア諸国連合（ASEAN），自由貿易協定（FTA），経済連携協定（EPA）】**	『東南アジアの生活・文化と環境』 (pp.72-77) 1「東南アジアの自然環境と生活」 ○モンスーン地帯と多雨林地帯 ○陸の道と海の道 ○インドネシア多島海 2「ASEAN諸国の多様性」 ○国ごとの宗教 ○五つの宗教 ○民族の問題 ○国家間の協力と交流 ○異なる経済発展 3「タイの産業と開発」 ○産業としての米 ○中進工業国への道 ○日本との深い関係 ■4「世界の都市問題」(p.142) ○首位都市ジャカルタの都市問題 **【熱帯，熱帯雨林気候，モンスーン，雨季，乾季，サバナ気候，デルタ，稲作，イスラム教，多民族国家，華人，東南アジア諸国連合（ASEAN），デルタ，稲作地帯，浮き稲，米，タイ米，中進工業国，工業団地（インダストリアル・エステイト），外資系企業】**
オセアニアに関わる単元	『オーストラリアの生活・文化』 (pp.138-143) 1「オーストラリアとその周辺の自然環境」 ○乾燥した大陸 2「オーストラリアの結びつきの変化」 ○移民の国 ○アジア太平洋圏との結びつき 3「自然を生かした産業」 ○降水量に左右される農業 ○豊富な鉱産・エネルギー資源 **【古期造山帯，掘り抜き井戸，環太平洋造山帯，多文化政策，APEC（アジア太平洋経済協力会議）】**	『オセアニア』 (pp.118-123) 1「オセアニアの自然と観光」 ○乾燥した大陸と太平洋の島々 2「オセアニアの歴史と多文化社会」 ○さまざまな文化に育まれた社会 ○アジア太平洋圏との結びつき 3「オセアニアの産業」 ○さかんな牧畜 ○豊富な鉱産資源 **【白豪主義，多文化主義，アボリジニー，マオリ，アジア太平洋経済協力会議（APEC），レアメタル】**	『オセアニアの生活・文化と環境』 (pp.116-121) 1「オセアニアの自然環境と歴史・民族」 ○太平洋の無数の島々 ○平坦で乾燥した大陸 ○アボリジニと白豪主義 ○マオリとニュージーランド 2「オセアニアの生活・文化」 ○都市で生活するオーストラリア人 ○リゾートとスポーツ 3「オセアニアの産業と世界市場」 ○観光と鉱物の豊かな資源 ○国際競争力のある農業 ○小さな国内市場と遠い世界市場 **【多文化社会，フライイング・ドクター，露天掘り，垂直貿易】**

○：単元内の小見出題目，【　】：教科書記述中の太字，■：トピック頁

（筆者作成）

第４表　高等学校地理歴史科地理Ａ教科書における東南アジア・オセアニアに関わる単元（2）

教科書	『高等学校現代地理A最新版』 （35清水 地A302）	『高等学校地理A』 （183第一 地A305）	『新編地理A』 （130二宮 地A304）
東南アジアに関わる単元	『東南・南アジアの人びとの暮らし』 (pp.40-41, 44-47) 1「東南・南アジアの自然と宗教」 ○東南アジア・南アジアの地形 ○モンスーンの影響を受ける気候 ○多重複合的な文化をもつ東南アジア 3「東南アジア・南アジアの農業・漁業」 ○東南アジアの稲作 ○プランテーションにたよる暮らし ○日本がかかわる漁業 4「ASEANの経済発展」 ○ASEANとは ○工業化の進んだ国ぐに ○シンガポールの経済発展 **【モンスーン，乾季，雨季，台風，サイクロン，高潮，インディカ種，緑の革命，プランテーション農業，モノカルチャー経済，開発輸入方式，東南アジア諸国連合（ASEAN），ASEAN自由貿易地域，モノカルチャー経済，輸出加工区，輸出指向型，自由貿易協定（FTA），経済連携協定（EPA）】**	『東南アジアの暮らしを学ぶ』 (pp.58-63) ○モンスーンの恵みと自然災害 ○重なる民族と外来文化 ○人々の移動とモノカルチャー経済 ○経済成長と人々の暮らしの変化 ○発展をめざすベトナム ○東アジア共同体をめざして ■ワーク４：ASEANの結びつきを考えよう **【熱帯モンスーン地域，モノカルチャー経済，緑の革命，東南アジア諸国連合，輸出加工区，ルックイースト政策，ドイモイ政策，アジア太平洋経済協力（APEC），ASEAN自由貿易地域（AFTA）】**	『東・南・東南アジアの生活・文化』 (pp.66-67, 78-81) 1「モンスーンアジアと乾燥アジア」 ○モンスーンと稲作 ○乾燥アジア 4「東南アジアの生活・文化」 ○東南アジアの歴史と文化 ○中国系住民と経済 ○マレー系住民と中国系住民 ○東南アジアの自然と農業 ○プランテーション農業 ○東南アジアの鉱業と経済発展 ○東南アジアの魅力ある観光 **【モンスーン（季節風），モンスーンアジア，ジャポニカ種，インディカ種，乾燥アジア，仏教，イスラム教徒，宗主国，キリスト教徒，チャイナタウン，華僑，華人，ブミプトラ，ブミプトラ政策，稲作，プランテーション農業，天然ゴム・コーヒー・バナナ・ココヤシ・油ヤシ，パーム油，ASEAN，ASEAN自由貿易地域（AFTA），経済連携協定（EPA）】**
オセアニアに関わる単元	『オセアニアの人びとの暮らし』 (pp.96-101) 1「オセアニアの自然環境と暮らし」 ○「南の大陸」と太平洋の島じま ○白人入植の歴史 ○白豪主義と多文化主義 2「オセアニアの産業」 ○農牧業の地域分布 ○豊富な鉱産資源 ○オーストラリアと日本 3「太平洋の島じまと暮らし」 ○太平洋の島じまの人びと ○核の海から反核・平和の海へ ○海面上昇と存続の危機 **【ポリネシア，ミクロネシア，メラネシア，アボリジニー，マオリ，白豪主義，多文化主義】**	『オセアニアの暮らしを学ぶ』 (pp.96-99) ○太平洋の島々と乾燥した大陸 ○先住民と移民の歴史と文化 ○多文化社会の形成 ○観光・農牧業と豊かな資源 ○オセアニアの現在と日本とのつながり **【メラネシア，ポリネシア，アボリジニ，マオリ，白豪主義，多文化主義，アジア太平洋経済協力（APEC）】**	『オセアニアの生活・文化』 (pp.114-117) 1「ニュージーランドの生活・文化」 ○かつては羊の国 ○観光資源としての自然 ○多民族社会の構築 2「オーストラリアの生活・文化」 ○白豪主義から多文化主義へ ○地下資源の分布 ○気候と農業 ○人口分布と観光資源 **【国立公園，トラック，マオリ語と英語，アボリジニー，移民，白豪主義，多文化主義社会，グレートディヴァイディング山脈，鉱山集落，大鑽井盆地，掘り抜き井戸，メリノ種，グレートバリアリーフ，エアーズロック（ウルル），ワーキングホリデー】**

○：単元内の小見出題目，【　】：教科書記述中の太字，■：トピック頁　　（筆者作成）

やすい情報が用意されている。

Ⅳ．むすび

以上より，中・高等学校の世界地誌学習や我が国の学校地理カリキュラムへの若干の示唆を試みると，次の四つにまとめられる。

1）中・高等学校ともに，東南アジア諸国は主に，国別ではなく，アジア州から東アジア諸国などと一体化して説明され，国家単位の地理的認識が希薄になりやすい。例えば，比較地誌アプローチより，オーストラリアと，タイあるいはシンガポールを一国レベルで対比させ，地域的差異の要因を探るために地理的見方・考え方が明確に試されれば，筆者は，簡易な比較地誌アプローチをとり，各一国をアンカー・ポイントとみなし，東南アジアとオセアニアを一体化させた地誌学習の可能性を考える。この場合，東南アジア構成国の一国の取り上げは事例的となり，構成国へ広げる学習展開となる。

2）東南アジアとオセアニアに関する地理的認識の積み上げについて，例えば，一次「オーストラリア」，二次「東南アジア地域（範域），

第５表　高等学校地理歴史科地理Ｂ教科書における東南アジア・オセアニアに関わる単元

教科書	『新詳地理B』（46帝国 地B301）	『地理B』（2東書 地B303）	『新編詳解地理B』（130二宮 地B302）
東南アジアに関わる単元	『東南アジア』（pp.243-251） ○モンスーンの影響を受ける自然 １「東南アジアの歴史と多様性に富む文化・民族」 ○東南アジアの成り立ち ○重層的な文化 ○複雑な民族構成 ２「東南アジアの農業とその変化」 ○東南アジアの稲作 ○プランテーションの発達 ○農業の変化 ３「ASEANの結成と工業の発展」 ○ASEANの結成と発展 ○外資の導入と急速な工業化 ○工業化の進んだ国々 ４「ASEAN諸国の変化と諸課題」 ○ASEAN域内の地域格差 ○生活の変化と都市問題 ○これからのASEAN諸国 **【三角州，季節風（モンスーン），東南アジア諸国連合（ASEAN），華人，ブミプトラ政策，緑の革命，二期作，プランテーション，多国籍企業，ASEAN，輸出加工区，輸出指向型，アジアNIEs，ドイモイ（刷新），ASEAN＋３】**	『東南アジア』（pp.248-257） １「東南アジアの見取り図」 ○モンスーン地帯と多雨林地帯 ○言語，宗教の差異と共通性 ２「川と海の生活世界」・河川と海によるつながり ○商業的農業の展開 ３「ASEANの政治と経済」 ○ASEAN諸国の協働 ○共存と対立 ４「東南アジアの開発と工業化」 ○タイの開発と工業化の進展 ○マレーシアの工業化 ○ASEAN域内分業の展開 ５「新たな前進と問題」 ○情報産業の進展 ○華人問題と都市・農村の格差 ○タイにおける地方農村と都市 **【モンスーン，雨季，乾季，上座部仏教，イスラム教，モノカルチャー，東南アジア諸国連合（ASEAN），ドイモイ（刷新）政策，多民族国家，アジア通貨危機，ブミプトラ政策，ルック・イースト政策，ASEAN自由貿易地域（AFTA），情報技術（IT），華人】**	『東南アジア』（pp.204-215） １「東南アジア諸国の成り立ち」 ○歴史的な背景　○ASEANの形成と拡大 ○世界のなかのASEAN ２「民族の多様性と国民統合」 ○多様な民族　○複合民族国家の政策 ○民族分布と国境線 ３「自然環境と資源」 ○地形の成り立ち　○モンスーンの影響 ○鉱産資源　○林産資源 ４「農業の伝統と現在」 ○伝統的な焼畑農業 ○古くから発達した稲作 ○東南アジアのプランテーション農業 ５「進む工業化と深まる経済の相互依存」 ○工業化のあしどり ○外国資本の導入と新たな工業化 ○輸出構成の変化 ○アジアのなかでの相互依存 ○経済連携の推進 ■地球的課題「東南アジアの都市問題」 ○大都市の貧困問題 ○新しい工業化と大都市の膨張 **【ASEAN（東南アジア諸国連合），AFTA（ASEAN自由貿易地域），国民統合，華僑・華人，多民族国家，ブミプトラ政策，新期造山帯，ラワン材，焼畑農業，浮稲，棚田，緑の革命，高収量品種，強制栽培制度，天然ゴム，アグリビジネス，油ヤシ，開発独裁体制，輸入代替工業化，輸出指向工業化，中継貿易，NIEs（新興工業経済地域），ルックイースト政策，ドイモイ政策，輸出加工区，１次産品，アジア新国際分業，経済連携協定（EPA），首位都市，スラム】**
オセアニアに関わる単元	『オセアニア』 （pp.310-317） ○一つの大陸と太平洋の島々 １「オセアニアの移民の歴史と多文化社会」 ○ヨーロッパ人の入植 ○アジア系移民の増加 ○多様な社会にはぐくまれた社会 ２「モノや人の移動で強まるアジアとの結びつき」 ○アジア・太平洋圏の一員として ○オセアニアと日本とのかかわり ３「資源を通じて強まるアジア諸国との結びつき」 ○豊富な鉱産 ○エネルギー資源 ４「アジア諸国に輸出される」 ○大規模に行われる農業 ○降水量に左右される地域 **【アボリジニー，白豪主義，多文化主義，ワーキング・ホリデー，ゴールドラッシュ，レアメタル，掘り抜き井戸】**	『オーストラリアとカナダ』 （p.312, p.314, p.316, p.318, p.320） １「先住民と移民」 ○オーストラリアの先住民と移民 ○オーストラリアの多文化社会 ２「自然環境」 ○オーストラリアの地形と乾燥した気候 ○降水量に左右されるオーストラリアの農業 ３「資源と産業」 ○オーストラリアの豊富な鉱産資源 ○国際競争力の高いオーストラリアの農業 ４「都市と生活」 ○港湾都市に由来するオーストラリアの都市 ５「世界との結びつき」 ○北を向くオーストラリア ○国際観光地としてのオーストラリア **【アボリジニ，ゴールドラッシュ，白豪主義，多文化社会，安定大陸，中緯度高圧帯，ワジ，酪農，放牧，牧羊，露天掘り，州都，港湾都市，中枢管理機能】**	『オーストラリアとカナダ』 （p.294, p.296, p.298, p.300, p.302, pp.304-305） １「ヨーロッパ人の植民と土地開発」 ○オーストラリアの植民と開発 ○オーストラリアの多文化社会への挑戦 ２「ヨーロッパ人進出の背景」 ○オーストラリアの距離の宿命 ○距離の克服とアジアへの視線 ３「土地開発の基盤」 ○古くて平らなオーストラリア大陸 ○オーストラリアの気候の人口分布 ４「土地資源の分布と利用」 ○オーストラリアの農牧業 ○オーストラリアの地下資源の開発 ■地球的課題「オーストラリアの土地の塩類化」 ■地域をみる「イギリス人が植民し開発したニュージーランド」 ○植民と農業開発　○酪農の盛衰と再編 ■地域をみる「オセアニアの島々と環境問題」 ○広くて狭いオセアニア　○陸地の分布 ○さまざまな環境問題 **【アボリジニー】【対蹠点】【APEC（アジア太平洋経済協力会議）】【アボリジニー】【安定陸塊】【グレートディヴァイディング山脈】【サバナ】【サイクロン】【ユーカリ】【大鑽井盆地】【ゴールドラッシュ】【鉱山集落】【塩類化】【スノーウィーマウンテンズ計画】【マオリ人】【酪農】【メラネシア・ミクロネシア・ポリネシア】【ハワイ諸島】【ホットスポット】【サンゴ礁】【エコツーリズム】【海面上昇】**

○：単元内の小見出題目，【　】：教科書記述中の太字，■：トピック頁

（筆者作成）

ニュージーランド」，三次「東南アジアの主要国，オセアニアの諸島地域（範域）（オーストラリアとニュージーランドを除く）」，四次「東南アジアの主要国以外の国」，五次「オセアニアの諸島地域の各国家・地域」といった重み付けが考えられる。このような傾向を踏まえ，学校地理カリキュラムの体系を整えていく可能性が見いだせる。その前提には，例えば，加賀美(2014) がヨーロッパの地域理解のポイントをあげるように地誌学の成果を踏まえ，小学校社会科から高校地理までの最終的なゴールとなる世界の諸地域に関する地理的認識のあり方や世界地誌学習の枠組みに関する議論，日本地誌学習の枠組みやそれらの関連付けの議論の深化も必要となる。

3）高等学校地理Bにおいて，例えば地理的認識の積み上げも手厚く，比較的にシンプルに地域性がとらえられるオーストラリアを中心（基準）に，地理的認識の積み上げの弱い州・地域と対比させるような比較地誌アプローチも考えられる。この場合，カリキュラム上，オーストラリアを世界地誌学習の前半部にとり，その後の学習を促進させる効果に期待したい。生徒の発達や学校段階の連続性を踏まえ，各州・国家の取り上げに教育的な効果を期待する順序性や，学習前後の知識・思考技能の活用性なども新たな議論として進めていく余地がある。

4）我が国の学校地理カリキュラムへの若干の示唆として，例えば，主題学習を軸に地誌と系統地理を相互に関連付ける高等学校地理学習の提案（高木，2014）があるように，社会的・地域的課題について追究する主題的なアプローチを主に学校地理カリキュラムの中心軸において考えた場合，地誌と系統地理のアプローチを融合する原理の幅広い議論が課題となる。それに伴って，本稿でいえば，最終的な世界地誌学習による地理的認識の積み上げイメージは，上手く描くことが困難となる。しかし，これからの学校地理カリキュラムを創造していくためには，そのような融合の原理やその具体化についての議論も一層深め，その中で静態地誌，動態地誌，比較地誌などの各アプローチの有効性を検討する余地も見いだせる。また，世界の各州・国家を平坦に広く細やかに取り上げる議論もできるが，各生徒が抱く世界像は様々に尊重され，将来の社会生活において広く活用されるべきである。そのためには，生徒の認識主体としての多様な相対化から，さらに現実社会の生活に向け，多重な市民的な価値態度の形成により良く結び付けられる学校地理カリキュラムにおける世界地誌学習を構成する原理についても検討していく必要がある。

付記

本稿は，2015年日本地理学会春季学術大会（日本大学文理学部）第27回地理教育公開講座にて発表した内容の一部であり，また科学研究費補助金基盤研究(C)：「イギリス関連政府型地理カリキュラムの新展開に関する研究」（課題番号26381171）(2014年度）の成果の一部を含みます。

文献

池　俊介（2013）：世界地誌学習の今後の課題．新地理，**61**(1)，pp.42-43.

加賀美雅弘（2014）：拡大するEUに着目したヨーロッパ地域理解の視角．新地理，**62**(3)，pp.78-85.

高木　優（2014）：高等学校「地理基礎」における主題的相互展開学習の開発と授業実践－神戸大学附属中等教育学校の取り組みを事例に－．新地理，**62**(3)，pp.92-99.

中村　薫（2010）：小・中・高等学校の地理的分野における東南アジア学習の変遷―学習指導要領と教科書からみた東南アジア像―．研究紀要（芦屋女子短期大学），35，pp.17-32.

深瀬造三（2014）：新学習指導要領下の小・中・高校の各社地理教科書におけるアメリカ地誌の具体的記述．新地理，**62**(2)，pp.42-52.

矢ヶ崎典隆（2015）：探険と発見のアメリカ地誌―地誌学の再構築に向けて―．地理学評論，**88**(2)，pp.83-101.

吉田　剛（2001）：高校生の大陸・国家に対するイメージの分析―認知的・情意的側面と象徴要素から―．新地理，49(4)，pp.1-17.
吉田　剛（2003）：高校生の大陸・国家に対するイメージの空間性と空間認識について．社会科教育研究，90，pp.1-14.
吉田　剛（2006）：高校生の世界イメージ形成について―間接情報の影響に着目した地理教育の課題―．地理科学，61(2)，pp.34-48.
吉田　剛（2014）：高等学校地歴科「地理」の構成と授業展開．栗原久編『入門 社会・地歴・公民科教育 確かな実践力を身に付ける』，梓出版，pp.122-131.